



岡山県内経済情勢

平成 26 年 7 月

財務省中国財務局

岡山財務事務所

消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れつつあり、総じてみれば緩やかに持ち直している

【総括判断】

前回(26年4月判断)	今回(26年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
消費税率引上げに伴う駆け込み需要及びその反動がみられるものの、緩やかに持ち直している	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れつつあり、総じてみれば緩やかに持ち直している	⇒	駆け込み需要の反動がみられるものの、個人消費は反動の影響が薄れつつあり、生産は総じてみれば緩やかに持ち直しているほか、雇用情勢はより改善している

【項目別の判断】

項目	前回(26年4月判断)	今回(26年7月判断)	前回比較
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要及びその反動がみられるものの、引き続き緩やかに持ち直している	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れつつあり、緩やかに持ち直している	⇒
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	↘
設備投資	25年度計画は前年度を下回る見込み	26年度計画は前年度を上回る見通し	↗
輸出入	輸出入ともに前年を上回っている	輸出は前年を下回っており、輸入は前年を上回っている	↘
生産活動	緩やかに持ち直している	総じてみれば緩やかに持ち直している	⇒
企業の経常利益	25年度は減益見込み	26年度は減益見通し	⇒
企業の景況感	改善が続いている	「下降」超に転じている	↘
雇用情勢	改善している	より改善している	↗

個人消費

消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れつつあり、緩やかに持ち直している。大型小売店販売は、百貨店で消費税率引上げに伴い駆け込み需要が大きかった化粧品などを中心に反動減がみられるものの、食料品等が好調で全体では持ち直している一方、スーパーでは、精肉や総菜等が好調であるものの、衣料品などに反動減がみられる。ホームセンター販売は、日用品を中心に消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられるものの、工具・資材などの需要が底堅く、引き続き前年を上回っている。家電大型専門店販売は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられるものの、パソコン、冷蔵庫、テレビの買替え需要があることから、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、軽乗用車は、4月以降も駆け込み分の登録がみられたことから、前年を上回っているものの、普通乗用車、小型乗用車は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられ、全体では弱含んでいる。コンビニエンスストア販売は、たばこが消費税率引上げ前の水準まで回復していないものの、カウンターフーズが引き続き好調である。旅行取扱の状況は、国内は、テーマパークや沖縄など、海外は、シンガポールなどアジア方面が堅調である。

住宅建設

新設住宅着工戸数は、前年を下回っている。利用関係別にみると、貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っている。

設備投資

当所法人企業景気予測調査(26年4~6月期調査)でみると、26年度計画は前年度を上回る見通しとなっている。業種別にみると、製造業は、その他輸送用機械などが減少するものの、金属製品、繊維などが増加することから、前年度を上回る見通しとなっている。非製造業は、医療・教育などが減少するものの、小売、金融・保険などが増加することから、前年度を上回る見通しとなっている。

公共事業

前払金保証請負金額(年度累計)でみると、前年度を上回っている。発注者別にみると、国、県などが前年度を下回っているものの、独立行政法人等、市区町村などが前年度を上回っている。

輸出入

輸出は前年を下回っており、輸入は前年を上回っている。輸出は、品目別では、化学製品や自動車などが前年を下回っている。地域別では、アジアや大洋州などが前年を下回っている。輸入は、品目別では、鉱物性燃料などが前年を上回っている。地域別では、アジアや中東などが前年を上回っている。

生産活動

総じてみれば緩やかに持ち直している。鉄鋼は、自動車向けや国内の建築向けなどが好調で、高操業が続いている。自動車は、国内向けの新型車販売が好調であることから、高操業が続いている。造船は、省エネ船の受注に動きがみられるものの、生産水準は低下した状態が続いている。石油精製は、定期修理の影響から生産は低下している。石油化学は、定期修理の影響を主因として生産は低下している。電気機械関連は、スマートフォン向け電子部品の一部に持ち直しがみられる。工作機械は、自動車関連向け需要が堅調なことから高めの生産水準を維持している。

企業の経常利益

当所法人企業景気予測調査(26年4~6月期調査)でみると、26年度は減益見通しとなっている。業種別にみると、化学などが減益となるものの、電気機械、繊維などが増益となることから、増益見通しとなっている。非製造業は、宿泊・飲食などが増益となるものの、その他サービス、医療・教育などが減益となることから、減益見通しとなっている。

企業の景況感

当所法人企業景気予測調査(26年4~6月期調査)でみると、「下降」超に転じている。現状(26年4~6月期)の景況判断BSIは、前期(26年1~3月期)から「下降」超に転じている。先行きは、翌期(26年7~9月期)は「上昇」超に転じ、翌々期(26年10~12月期)は「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

雇用情勢

より改善している。有効求人倍率は、新規求人数が増加していることなどから高水準で推移している。所定外労働時間は前年を上回っている。

消費者物価

消費者物価(岡山市、除く生鮮食品)は、前年を上回っている。

金融情勢

県内金融機関の貸出残高は、前年を上回っている。

企業倒産

企業倒産は、件数、負債金額ともに前年を下回っている。

【県内経済に関する地域の声】

○個人消費について

- ▶ ボーナスが前年を上回る見込みであるほか、アベノミクスが評価されて景況について明るめのニュースが多く、消費マインドが落ち込まない雰囲気があり、景気は着実に回復の方向にある。(百貨店・大企業)
- ▶ デジタルテレビへの移行やエコポイントなどの特別な経済政策要因がないにも関わらず、今回の駆け込み需要が想定以上であったことをみると、景気が上向いて個人の消費マインドが高まっているとしか説明がつかない。(家電量販店・大企業)
- ▶ 消費税率引上げ後は旅行客が減少していたが、6月から国内景気の回復を受けて客足がもどってきており、夏までには前年並みになるとみている。(旅行代理店・中堅企業)

○生産活動について

- ▶ 造船の回復や発電プラントの設備投資等新しい分野での需要も見込まれるなど国内外とも需要は堅調に推移することから、フル生産が続くとみている。(鉄鋼・大企業)
- ▶ 国内向け新型車のラインアップが充実し、販売は好調であることから、引き続きフル生産となっている。(自動車・大企業)
- ▶ 自動車関連需要が引き続き好調であるほか、ものづくり補助金や設備投資促進税制等の政策効果から、受注・生産ともに増加を見込んでいる。(工作機械・中小企業)

岡山県内経済情勢

資料編

目	次	ページ
1.	個人消費	1
2.	住宅建設	3
3.	設備投資	4
4.	公共事業	5
5.	輸出入	6
6.	生産活動	7
7.	企業の経常利益	8
8.	企業の景況感	8
9.	雇用情勢	9
10.	消費者物価	10
11.	金融情勢	10
12.	企業倒産	11

※ グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

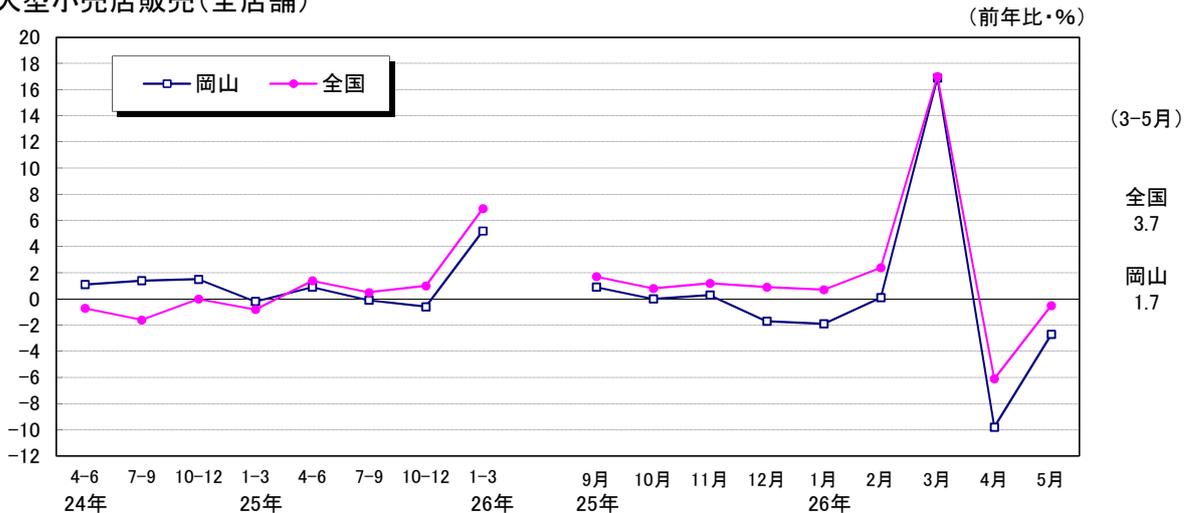
1. 個人消費 … 消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れつつあり、緩やかに持ち直している

個人消費は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れつつあり、緩やかに持ち直している。

【業態別の動向】

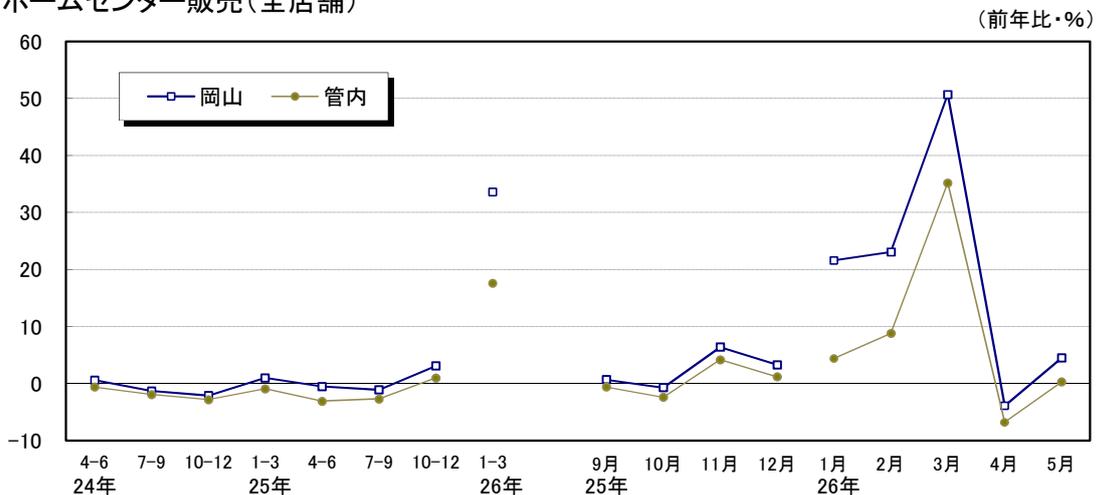
- ・大型小売店販売は、百貨店で消費税率引上げに伴い駆け込み需要が大きかった化粧品などを中心に反動減がみられるものの、食料品等が好調で全体では持ち直している一方、スーパーでは、精肉や総菜等が好調であるものの、衣料品などに反動減がみられる。
- ・ホームセンター販売は、日用品を中心に消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられるものの、工具・資材などの需要が底堅く、引き続き前年を上回っている。
- ・家電大型専門店販売は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられるものの、パソコン、冷蔵庫、テレビの買替え需要があることから、前年を上回っている。
- ・乗用車販売(新車登録・届出台数)は、軽乗用車は、4月以降も駆け込み分の登録がみられたことから、前年を上回っているものの、普通乗用車、小型乗用車は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられ、全体では弱含んでいる。
- ・コンビニエンスストア販売は、たばこが消費税率引上げ前の水準まで回復していないものの、カウンターフーズが引き続き好調である。
- ・旅行取扱の状況は、国内は、テーマパークや沖縄など、海外は、シンガポールなどアジア方面が堅調である。

① 大型小売店販売(全店舗)



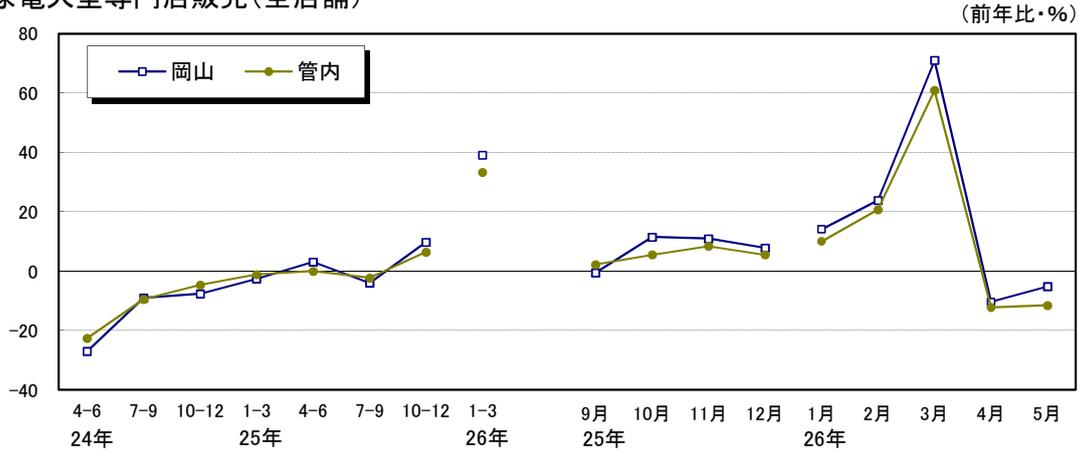
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

② ホームセンター販売(全店舗)



(注) 26年1月以降は、新旧統計調査における同一事業所の前年同月比 (資料出所: 中国経済産業局)

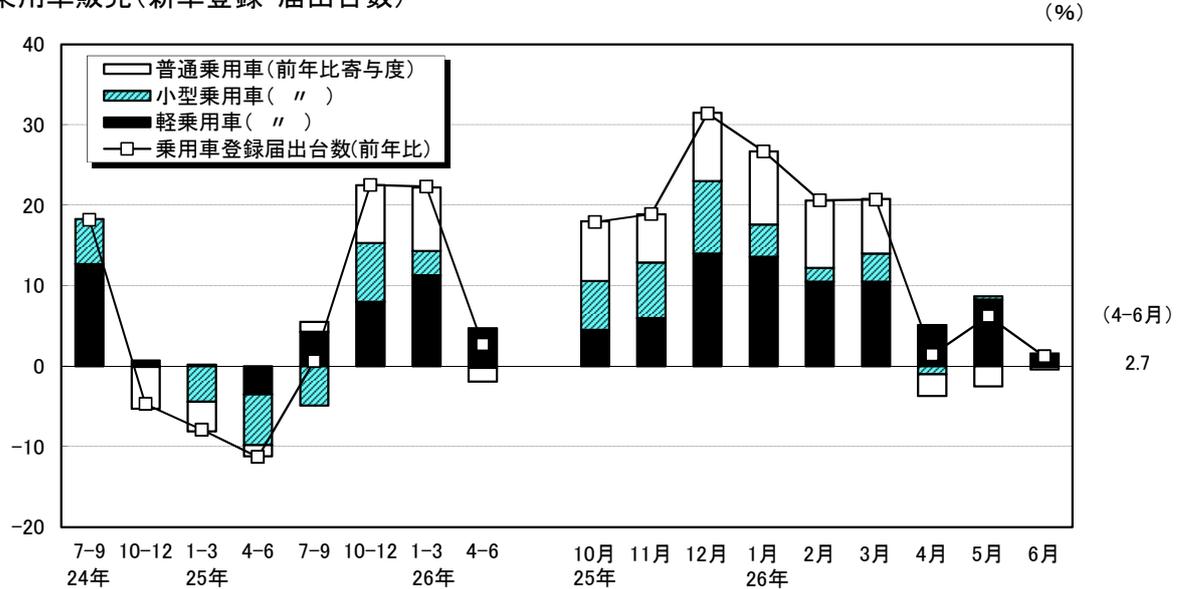
③ 家電大型専門店販売(全店舗)



(注) 26年1月以降は、新旧統計調査における同一事業所の前年同月比

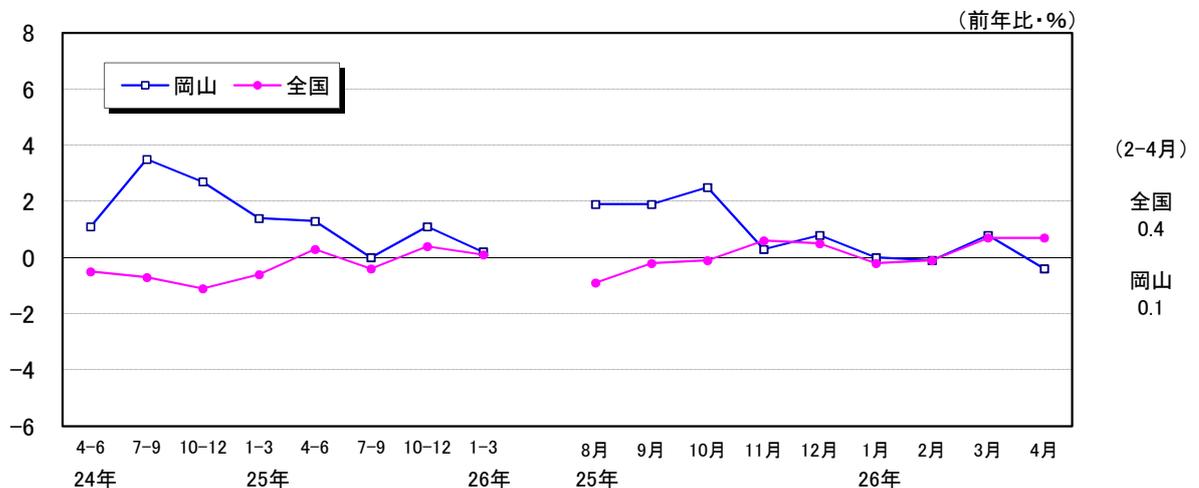
(資料出所: 中国経済産業局)

④ 乗用車販売(新車登録・届出台数)



(資料出所: 中国運輸局岡山運輸支局)

⑤ 現金給与指数(常用労働者5人以上の事業所)



(資料出所: 厚生労働省、岡山県総合政策局統計分析課)

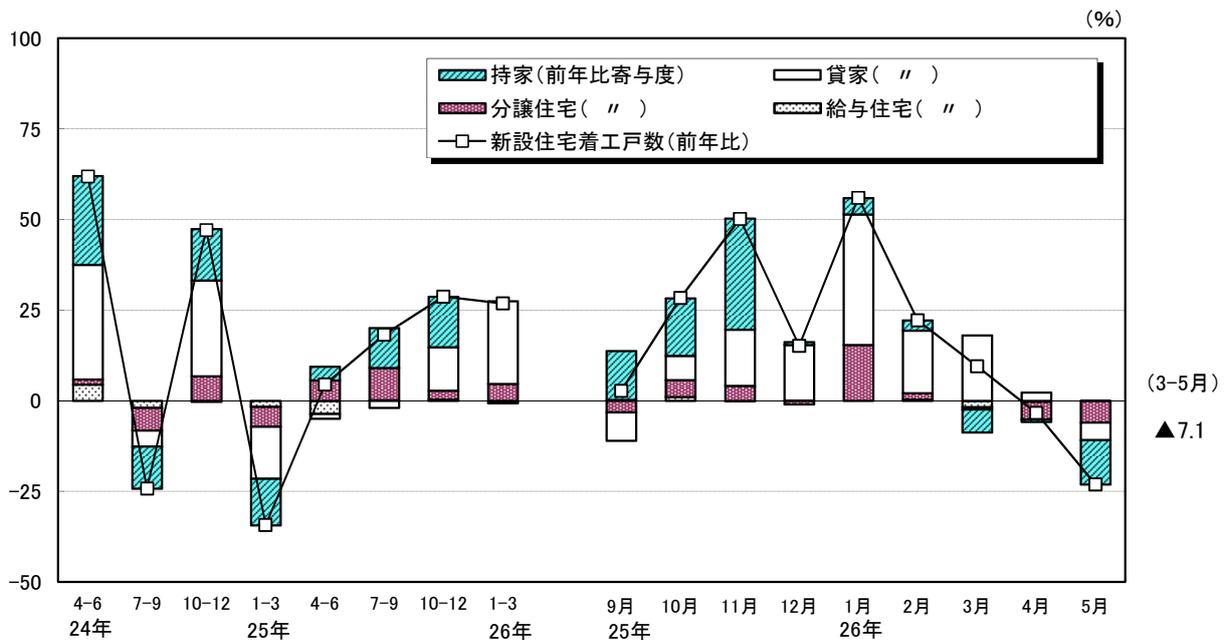
2. 住宅建設 … 前年を下回っている

新設住宅着工戸数は、前年を下回っている。

【利用関係別の動向】

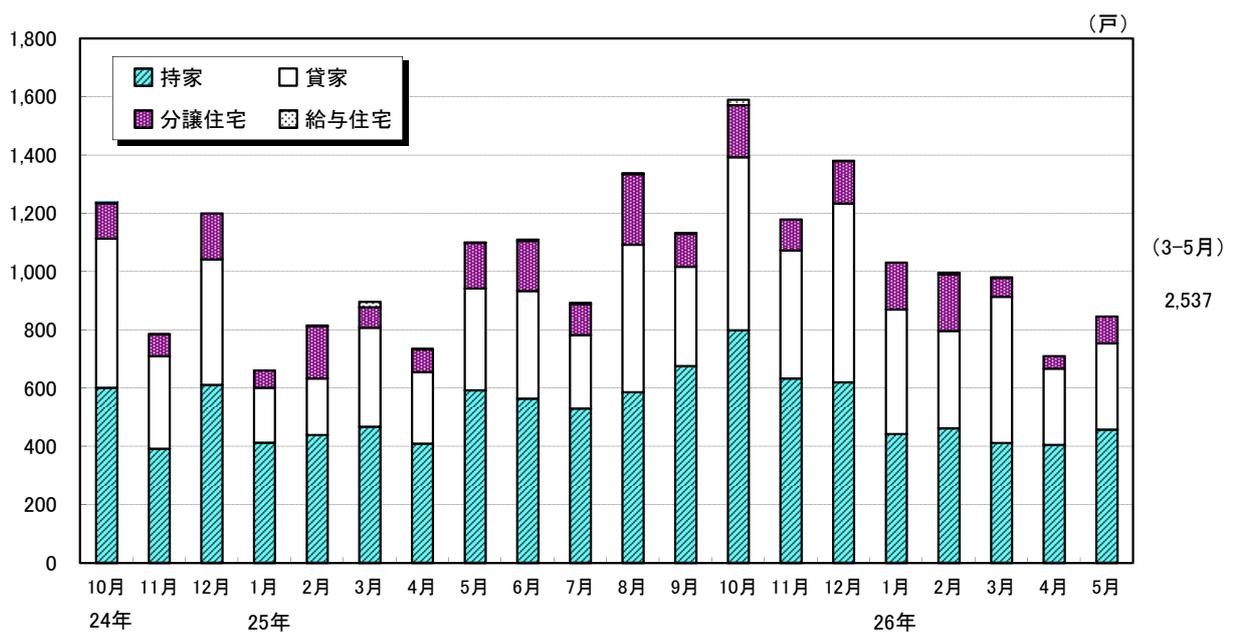
・ 利用関係別にみると、貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っている。

①新設住宅着工戸数の増減



(資料出所:国土交通省)

②利用関係別の状況



(資料出所:国土交通省)

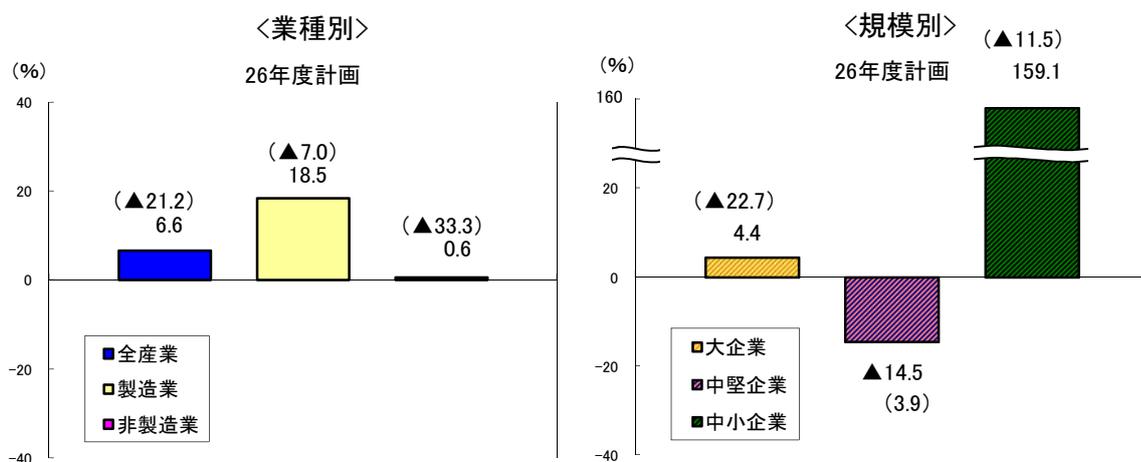
3. 設備投資 …26年度計画は前年度を上回る見通し

当所法人企業景気予測調査(26年4~6月期調査)でみると、26年度計画は前年度を上回る見通しとなっている。

【26年度の業種別の動向】

- ・ 製造業は、その他輸送用機械などが減少するものの、金属製品、繊維などが増加することから、前年度を上回る見通しとなっている。
- ・ 非製造業は、医療・教育などが減少するものの、小売、金融・保険などが増加することから、前年度を上回る見通しとなっている。

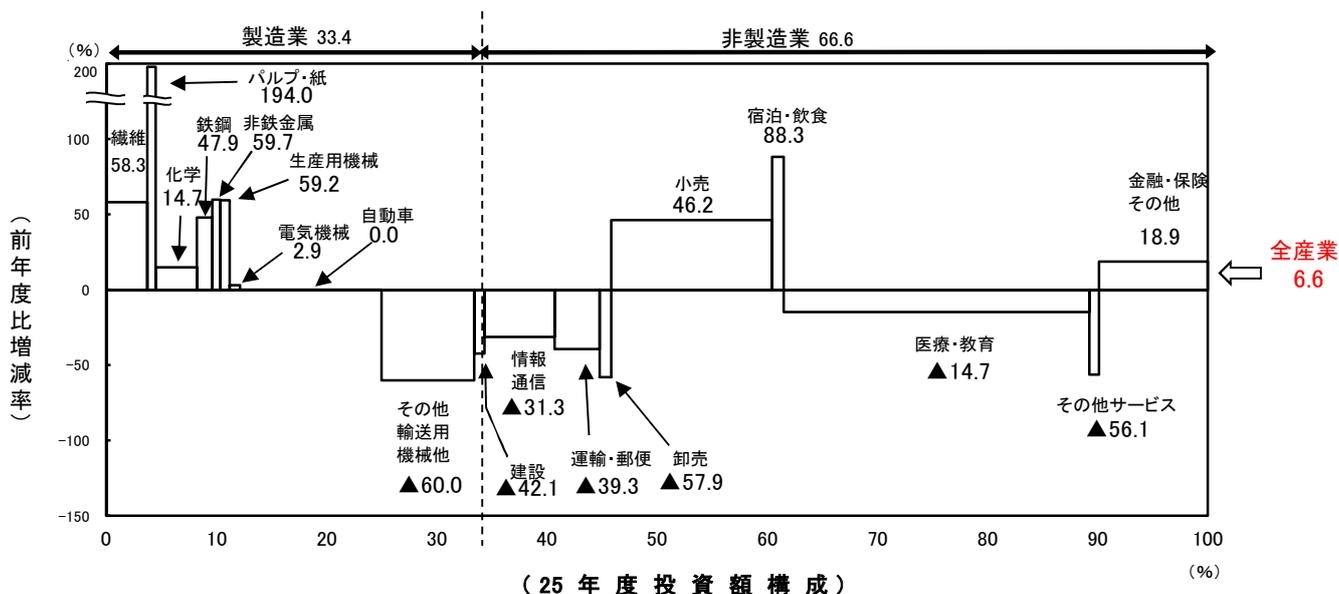
① 設備投資前年度増減率



(注) ()書きは26年1~3月期調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

② 主要業種別 設備投資状況 (26年度)



(資料出所:岡山財務事務所)

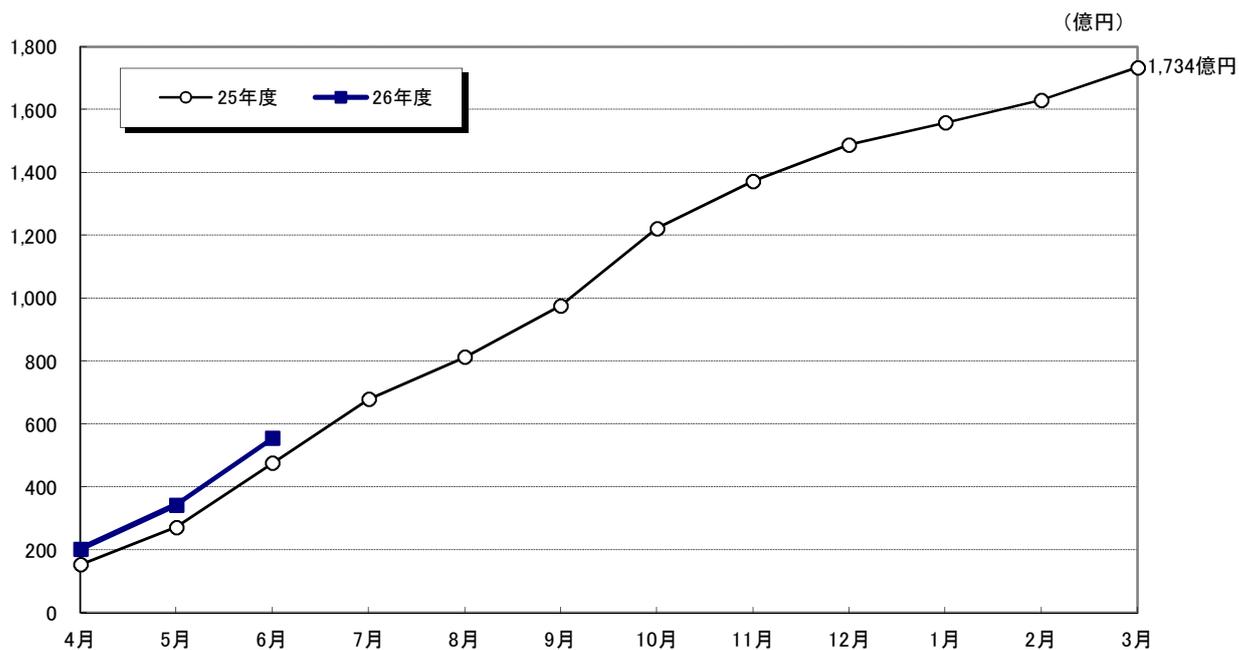
4. 公共事業 … 前年度を上回っている

前払金保証請負金額(年度累計)で見ると、前年度を上回っている。

【発注者別の動向】

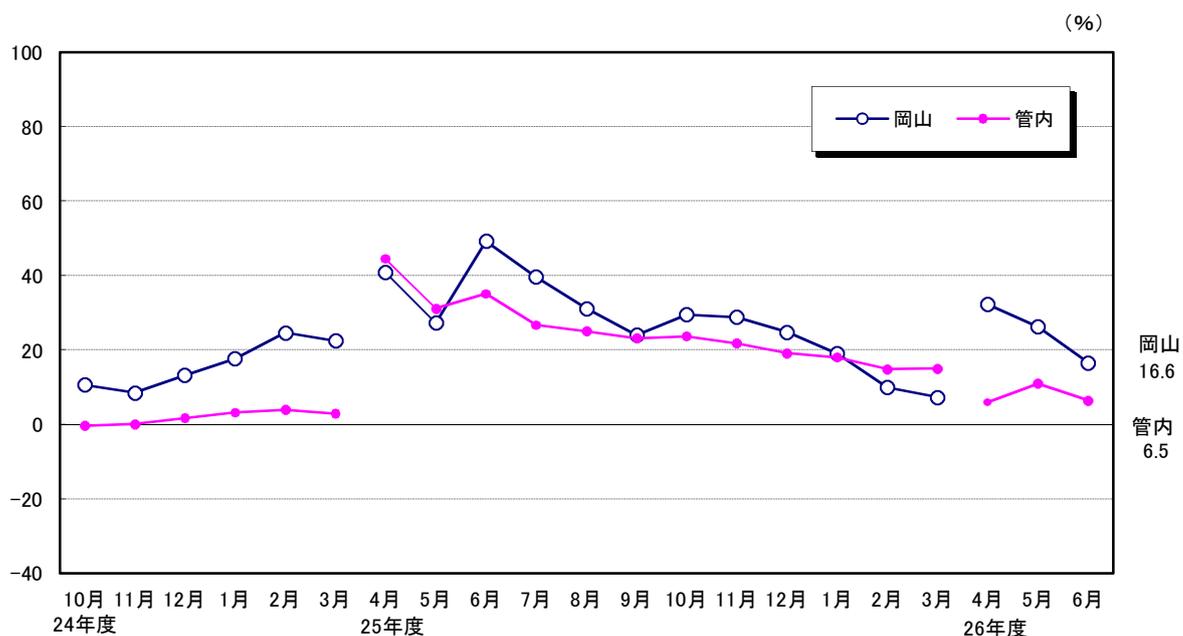
- ・ 国、県で前年度を下回っているものの、独立行政法人等、市区町村などが前年度を上回っている。

①公共工事請負金額(年度累計額)



(資料出所:各建設業保証(株))

②公共工事請負金額(年度累計前年度比)



(資料出所:各建設業保証(株))

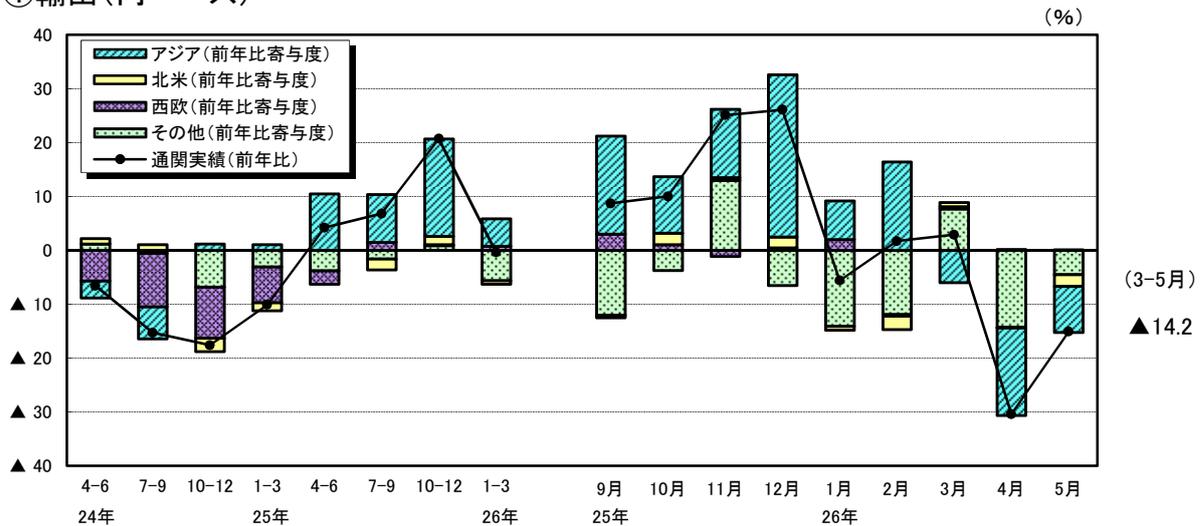
5. 輸出入 … 輸出は前年を下回っており、輸入は前年を上回っている

輸出は前年を下回っており、輸入は前年を上回っている。

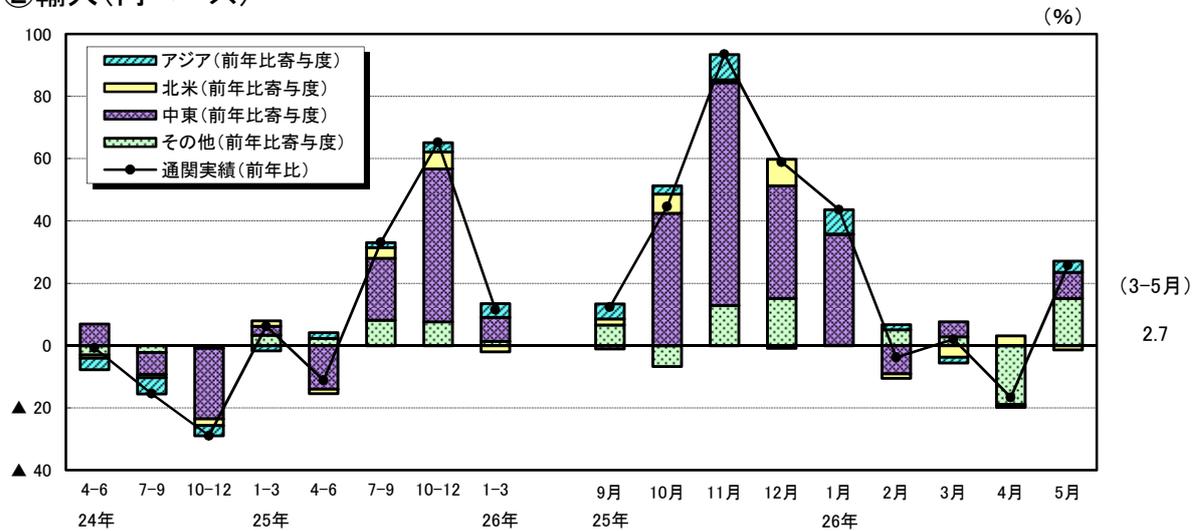
【輸出動向】
 ・品目別では、化学製品や自動車などが前年を下回っている。地域別では、アジアや大洋州などが前年を下回っている。

【輸入動向】
 ・品目別では、鉱物性燃料などが前年を上回っている。地域別では、アジアや中東などが前年を上回っている。

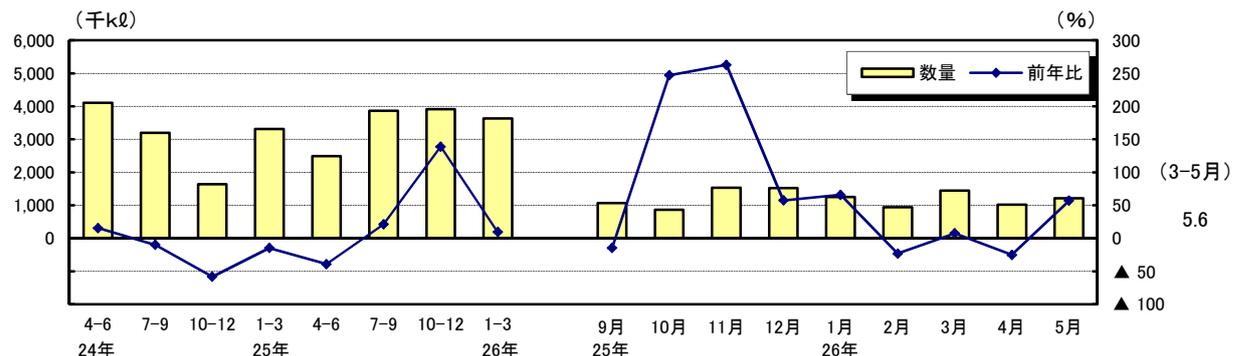
①輸出(円ベース)



②輸入(円ベース)



原油及び粗油 数量ベース輸入推移



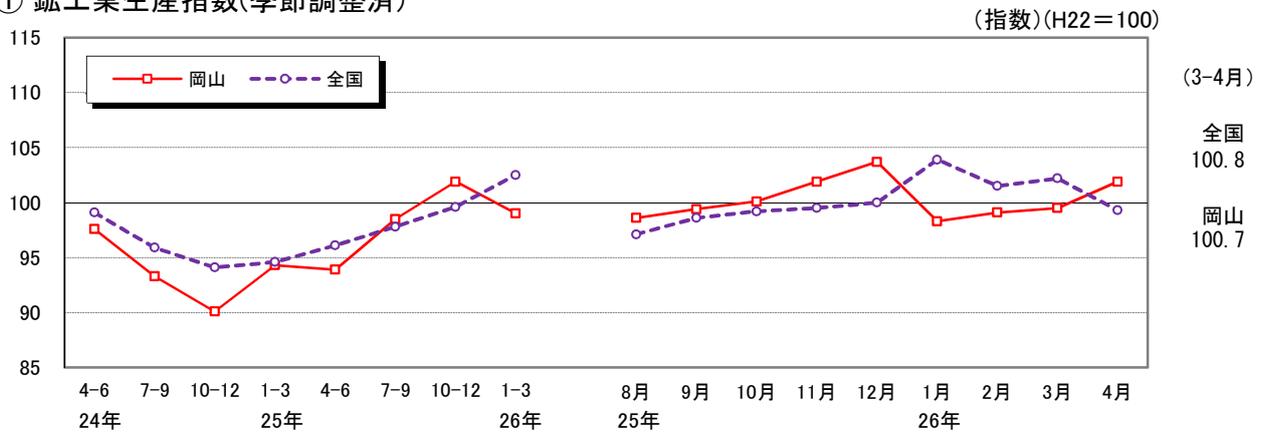
6. 生産活動 … 総じてみれば緩やかに持ち直している

生産活動は、総じてみれば緩やかに持ち直している。

【業種別の動向】

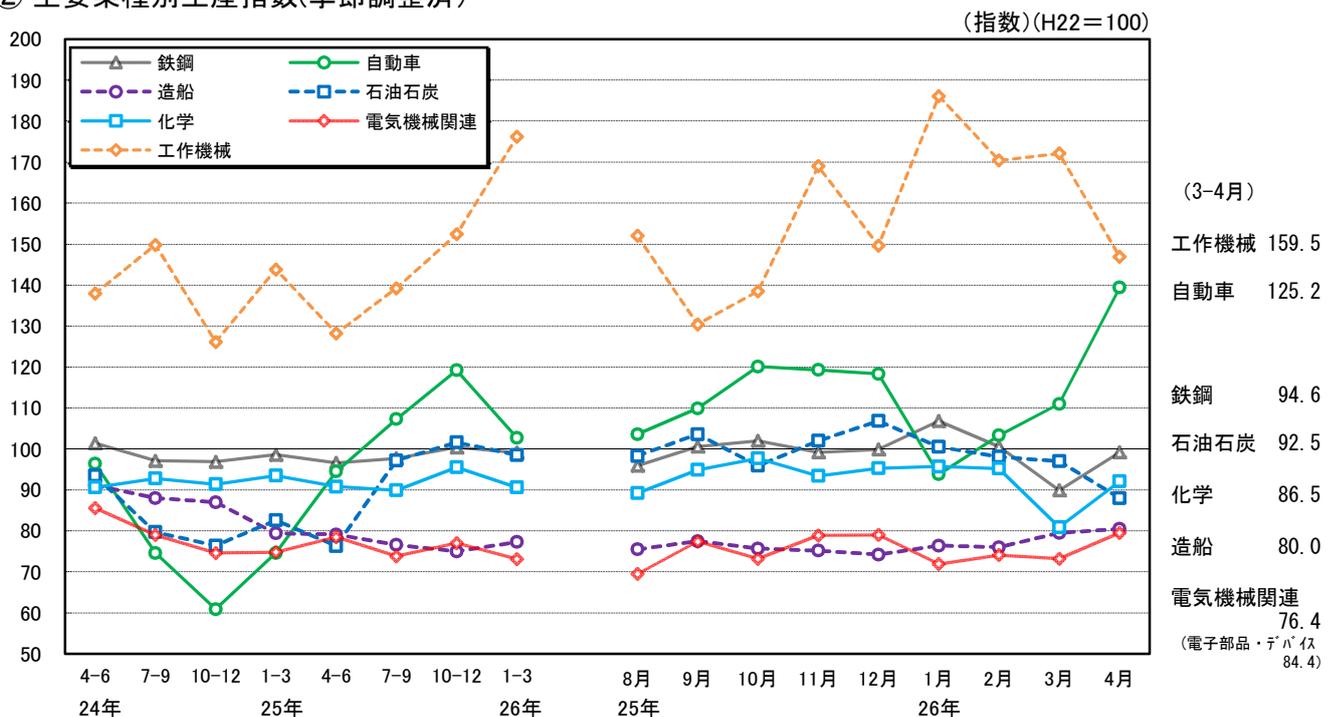
- ・鉄鋼は、自動車向けや国内の建築向けなどが好調で、高操業が続いている。
- ・自動車は、国内向けの新型車販売が好調であることから、高操業が続いている。
- ・造船は、省エネ船の受注に動きがみられるものの、生産水準は低下した状態が続いている。
- ・石油精製は、定期修理の影響から生産は低下している。
- ・石油化学は、定期修理の影響を主因として生産は低下している。
- ・電気機械関連は、スマートフォン向け電子部品の一部に持ち直しがみられる。
- ・工作機械は、自動車関連向け需要が堅調なことから高めの生産水準を維持している。

① 鉱工業生産指数(季節調整済)



(資料出所: 経済産業省、岡山県総合政策局統計分析課)

② 主要業種別生産指数(季節調整済)



(資料出所: 岡山県総合政策局統計分析課)

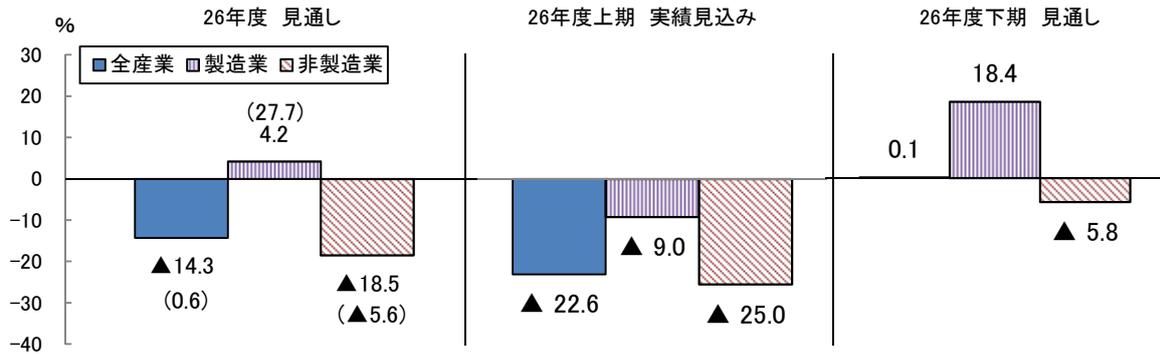
7. 企業の経常利益…26年度は減益見通し

当所法人企業景気予測調査(26年4～6月期調査)でみると、26年度は減益見通しとなっている。

【26年度の業種別の動向】

- ・ 製造業は、化学などが減益となるものの、電気機械、繊維などが増益となることから、増益見通しとなっている。
- ・ 非製造業は、宿泊・飲食などが増益となるものの、その他サービス、医療・教育などが減益となることから、減益見通しとなっている。

経常利益(電気・ガス・水道業、金融業・保険業を除く、前年度比)



(注) ()書きは26年1～3月期調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

8. 企業の景況感…「下降」超に転じている

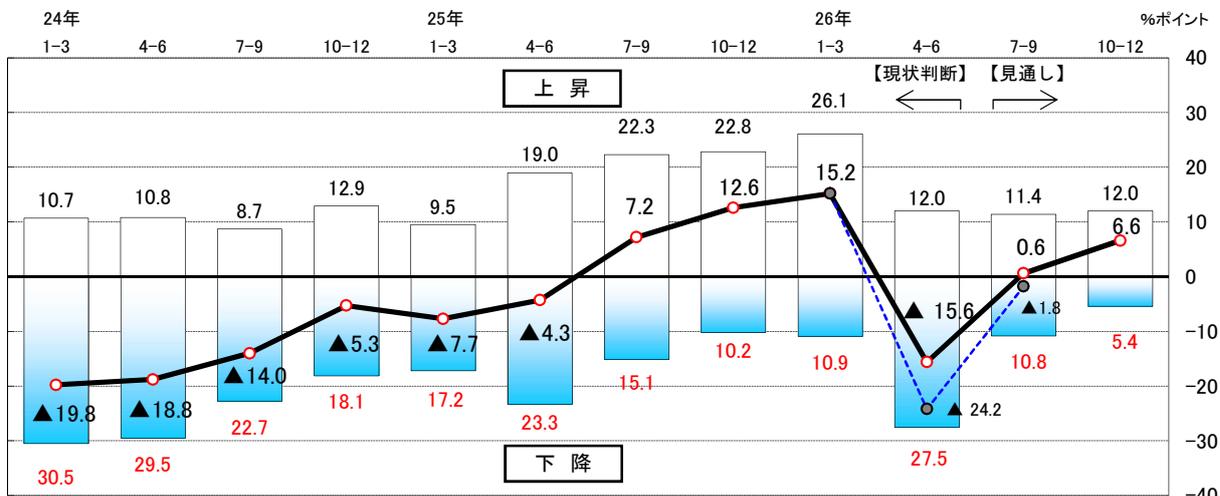
当所法人企業景気予測調査(26年4～6月期調査)でみると、「下降」超に転じている。現状(26年4～6月期)の景況判断BSIは、前期(26年1～3月期)から「下降」超に転じている。先行きは、翌期(26年7～9月期)は「上昇」超に転じ、翌々期(26年10～12月期)は「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

【業種別の動向】

- ・ 製造業、非製造業ともに「下降」超に転じている。

景況判断BSIの推移(原数値)

(BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)



(注) --- 線は26年1～3月期調査時の見通し

(資料出所:岡山財務事務所)

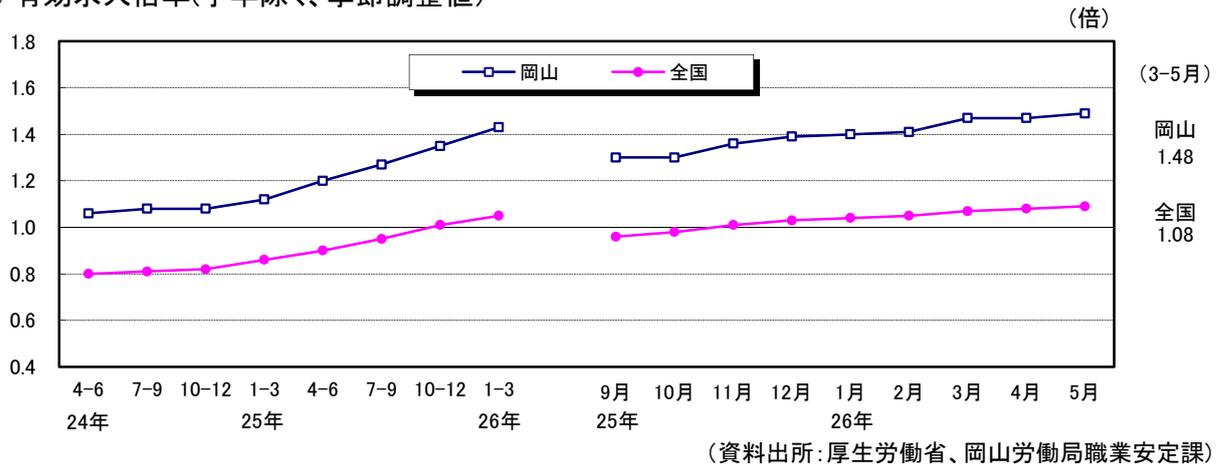
9. 雇用情勢 … より改善している

雇用情勢は、より改善している。
有効求人倍率は、新規求人数が増加していることなどから高水準で推移している。
所定外労働時間は前年を上回っている。

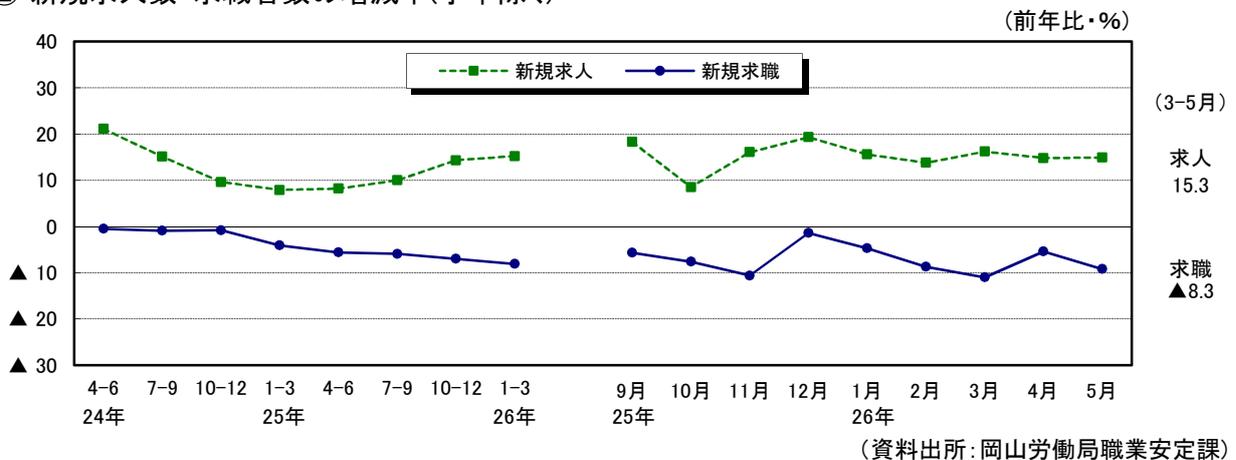
【新規求人数・求職者数の動向】

- ・ 新規求人数(学卒を除く)は、飲食・宿泊、医療・福祉などが増加していることから前年を上回っている。
- ・ 新規求職者数(学卒を除く)は、前年を下回っている。

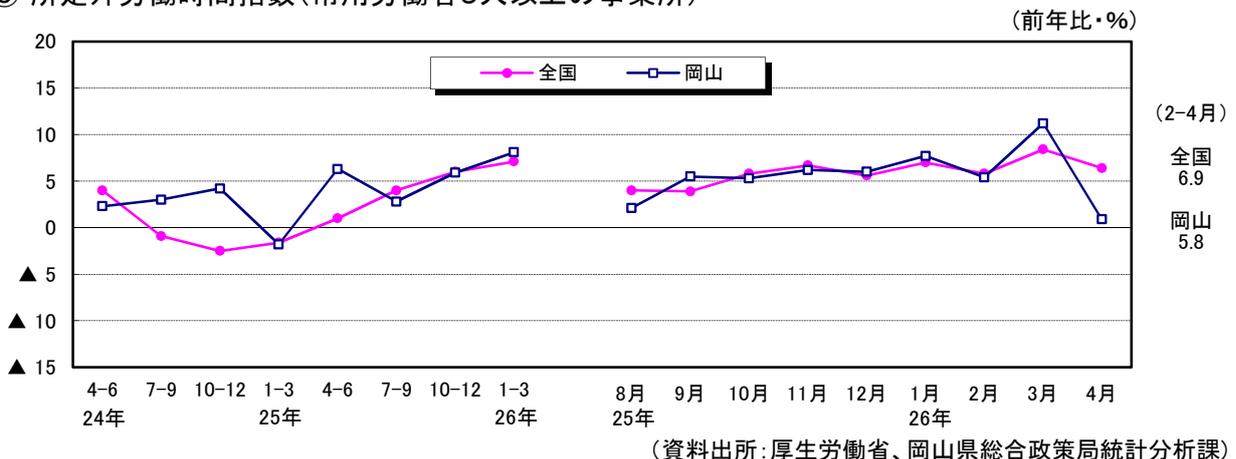
① 有効求人倍率(学卒除く、季節調整値)



② 新規求人数・求職者数の増減率(学卒除く)



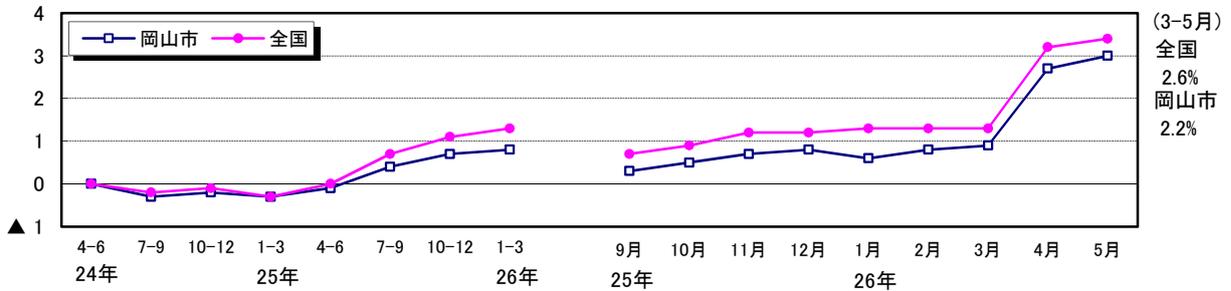
③ 所定外労働時間指数(常用労働者5人以上の事業所)



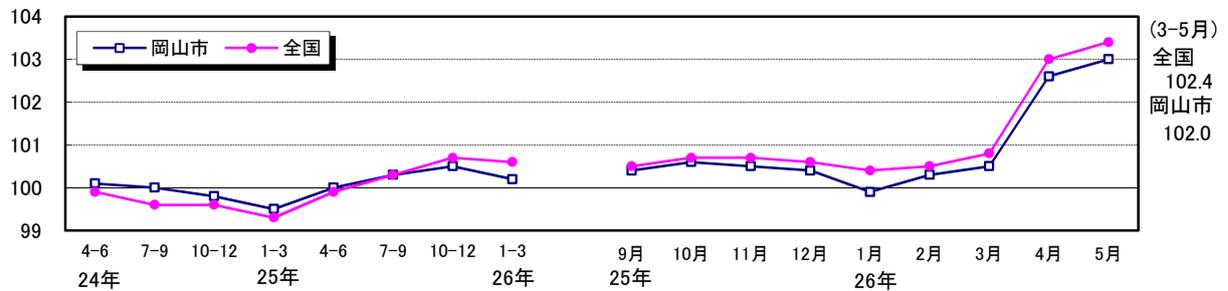
10. 消費者物価 … 前年を上回っている

消費者物価(岡山市、除く生鮮食品)は、前年を上回っている。

消費者物価指数の前年比の推移(除く生鮮食品) (%)



消費者物価指数の推移(除く生鮮食品) (平成22年=100)

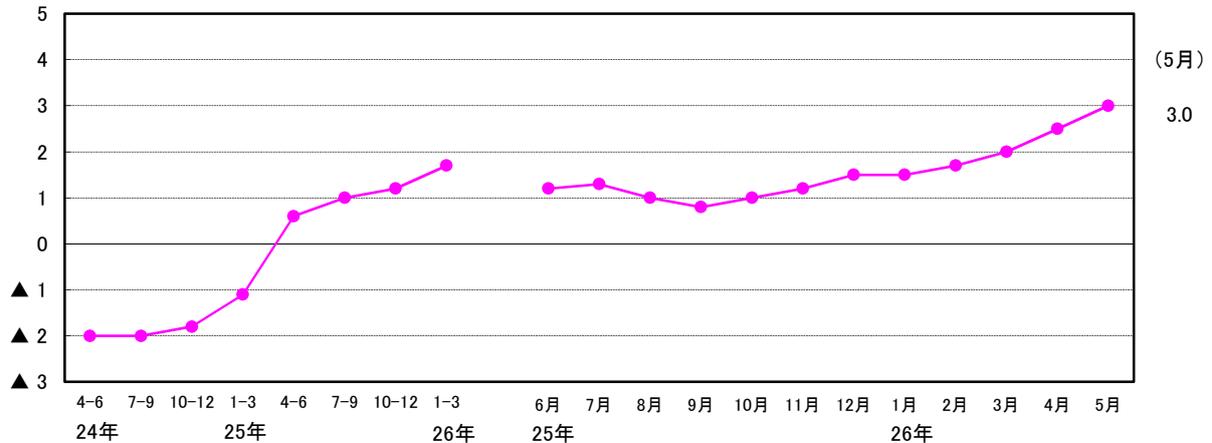


(資料出所:総務省統計局)

11. 金融情勢 … 前年を上回っている

県内金融機関の貸出残高は、前年を上回っている。

県内金融機関の貸出残高の推移(平残:前年比) (%)



(注)国内銀行、信用金庫、信用組合のうち、県内所在店舗分の合計

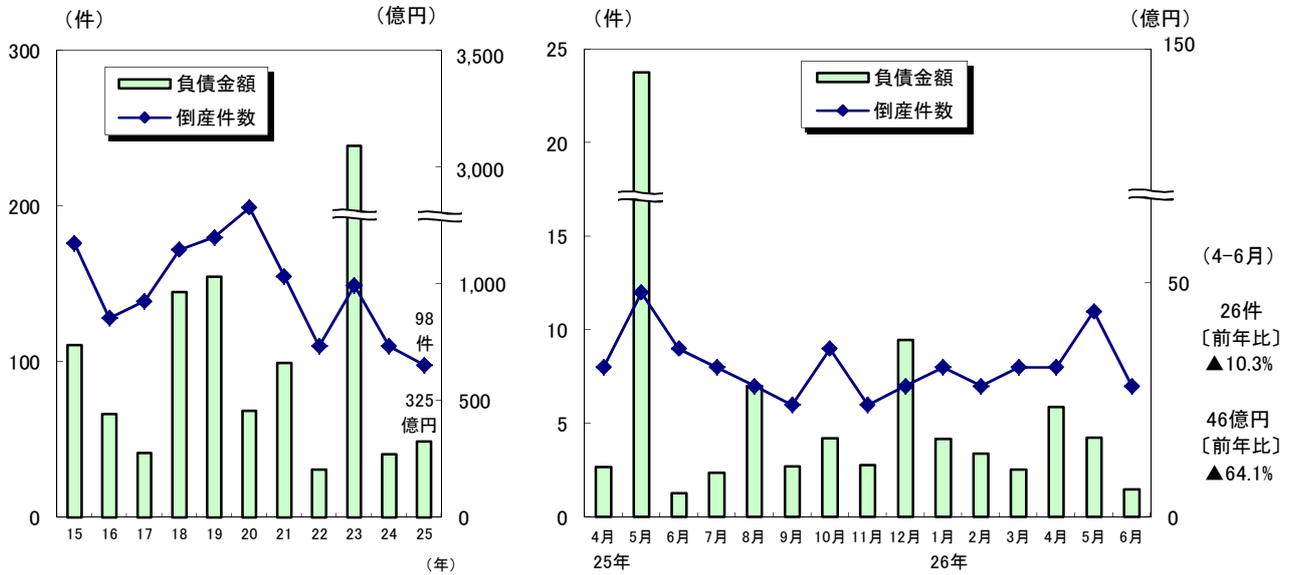
(資料出所:日本銀行岡山支店)

12. 企業倒産 … 件数、負債金額ともに前年を下回っている

企業倒産は、件数、負債金額ともに前年を下回っている。

【業種別、原因別の動向】

- ・業種別(件数)では「建設」、原因別(件数)では「販売不振」が多い。



（資料出所：株東京商工リサーチ）

本調査にかかる問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課長 田中
TEL(086)223-1131 内線411